

## 子どもたちの貧困解消を目指して

NGO\*を設立し、発展途上国のストリートチルドレンをなくすことを目的とした支援活動をしているスティーン花怜さん。現役高校生でありながら、NGOを設立したきっかけと現在の活動をお伺いしました。

「昨年、タンザニアでの医療ボランティア活動を経て、アフリカの魅力とともに現地の子どもたちが直面する深刻な問題を目の当たりにしました。その経験から、問題解決のために自ら行動する必要性を強く感じました」とスティーン花怜さん。

帰国後、現地の1人の医師からの声をきっかけに、日本の高校生と大学生が主体となって、「Hana Tabasamu Foundation」を設立。この組織名は、日本語の「花 (Hana)」とスワヒリ語の「笑顔 (Tabasamu)」から名付けたもので、子どもたちの幸せを願い、花東のように子どもたちの笑顔が溢れる社会を目指しています。

ストリートチルドレンは、物乞いや



### スティーン 花怜さん(燕市在住)

【新潟明訓高等学校2年生】

● NGO 団体 Hana Tabasamu Foundation 代表



▲活動の様子はこちら

▲今年7月から8月に単身渡航し、行ったタンザニアでの活動の様子



労働のため教育を受けられず、就職、医療から遠ざかり、貧困の悪循環に陥っているといいます。今年7月から8月のタンザニア滞在時は、クラウドファンディングで集めた30万円の資金をもとに、食糧支援や衣類提供の支援活動を実施したほか、一人の子どもを職業訓練校に送り出すこともできました。

今後の目標をスティーンさんに伺いました。「目標は、ストリートチルドレンをなくしていくことです。将来的には、子どもたちの職業訓練校への入校を活動の中心に据えたいと考えています。子どもたちの社会参加のきっかけづくりが必要で、仕事に就けない状況を変え、職を持つための支援を積極的に行っていきたいと思っています」

※貧困、平和、環境などさまざまな問題に取り組む非政府非営利団体

### 紙上ブログ

燕市長 鈴木力

広報つばめ・子ども版「もつと、ギョツと、つばめっ子ニュース」の第13号が完成しました。小学5、6年生18名の子ども記者が4チームに分かれて、5カ月にわたり企画、取材、編集の作業をすべて自分たちで行いました。

「PR大使」県央基幹病院「学校給食の栄養士・調理員」「てまりの湯」というチームテーマのほか、共同テーマとしてサッカーチーム「アルビレックス新潟」も取材しました。

本号と一緒に配布しますので、ご覧ください。とても素晴らしい出来栄ですよ。みなさんも子どもたちの努力に大きな拍手を送ってください。

◀こちらは有料広告です。

おうちのテレビ... アンテナ... 困っていませんか?

**NCT** なら **アンテナ不要**

地デジ BS が

雨風の心配なしで **快適に見られます!!**

おかげさまでご利用世帯数 **74,000** 世帯

インターネット・ケーブルテレビ・電話 **エヌ・シー・ティ** **0120-080-009**

電話受付時間 **9:30~17:30** (ドコモ光タイプCに関しては10:00~19:00)  
※上記時間以外・土日祝・お盆期間・年末年始は時間外受付に転送されます。

※この広報紙は、環境にやさしいペジタブル・オイル・インクを使用しています。